



水稻のカメムシ対策について

耕種的防除

出穂2週間前までに
畦畔の草刈りを
しましょう

斑点米をおこすカメムシ類は、水稻出穂前はイネ科の雑草に生息し、水稻の出穂とともに水田に移動します。出穂2週間前までに草刈りを行い、斑点米をおこすカメムシ類の生息地をなくしましょう。逆に、出穂後以降に草刈りを行うと水田に移動するので、**出穂後は草刈りを行わないように**しましょう。刈り取り後の雑草は、水路等に流れないよう**気をつけ**ましょう。



ホソヘリカメムシ



クモヘリカメムシ

※出穂期とは、圃場全体の茎のうち、半数程が出穂した時期をいいます。生育の早い茎から穂が見え始めたら、2〜3日間隔で圃場を観察し出穂の様子を確認するようにしましょう。



出穂直前の茎の様子。(茎が透き通って開きかけている状態。)

薬剤防除

出穂5〜7日後に薬剤を散布しましょう。散布した**10〜14日後に追加散布**をしましょう。



この時期になったら薬剤を散布しましょう。(穂が少し傾いた時期)

水稻の高温障害対策について

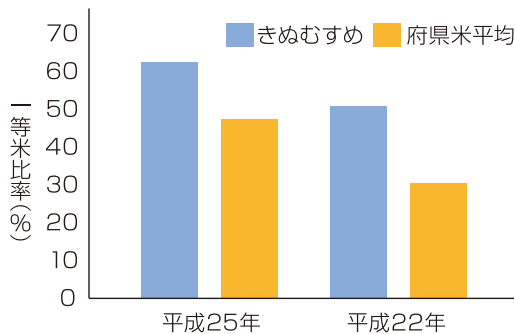
来年の品種を見直しませんか？

高温の年でも比較的品質の良い『きぬむすめ』を作りませんか？

きぬむすめの特徴

①暑い年でも品質がいい

きぬむすめを銘柄指定している府県では、高温の年でもきぬむすめの玄米は平均値より高い一等米比率を示すというデータがあります。



引用：農研機構 良食味米の定番「きぬむすめ」パンフレット

②食味がいい

きぬむすめは、食味がコシヒカリと同等とされるおいしいお米です。

③栽培適地が広い

品種	田植え時期	出穂時期	収穫時期
キヌヒカリ	5月中旬	8月10日前後	9月上旬
きぬむすめ (中山間部)	5月中旬～下旬	8月20日前後	9月下旬～10月上旬
きぬむすめ (平坦部)	5月下旬～6月下旬	8月20日前後	10月上旬
ヒノヒカリ	6月上旬	8月25日前後	10月上旬～中旬

大阪では、中山間部でも平坦部でも栽培できます。

栽培時の注意点

きぬむすめの生育は、キヌヒカリより遅くヒノヒカリより少し早いです。まわりの圃場の品種が異なると、生育期がずれてスズメやイノシシなどの鳥獣に狙われやすくなります。

対策例

○カイト鷹を設置する

スズメやカラス等の鳥に効果があります。風が吹くと鷹が舞い上がり、鳥よけになります。

○電柵を設置する

イノシシやシカに効果があります。下草刈りをこまめに行い、効果を保ちましょう。

大阪北部農協では「有害鳥獣被害防止対策補助事業」を実施しております。要領をご確認の上、是非ご利用ください。

